

「教職員の評価・育成システム」授業アンケートなど実施に関する状況調査

以下の資料は大阪府教委が市町村教委に 2012 年 11 月末を期限に報告を求めた「平成 24 年度『教職員の評価・育成システム』授業アンケート等実施に関する状況調査」の中の「4 授業アンケート全般について、その他ご意見がある場合はお書きください。」の記述をまとめたものです。

新勤評制度は知らない!全国交流会・事務局

1、豊中市

- アンケート結果を、教職員の評価の参考にされるといっただけでも保護者にとっては回答しづらい。まして、日ごろから保護者は教員の授業をつぶさに見ておらず、子どもからの意見だけの回答がどれだけ参考となるのか疑問である。
- 教員ごとにアンケートに回答する母集団が違い、保護者によって回答する基準も異なることから、結果の公平性・公正性が問われる。
- 評価・育成システムの対象外である講師への対応はどうか。アンケートを実施するなら、個人情報収集するためには本人同意が必要となる。同意がとれず対象外とすれば、保護者への説明が難しい。現場の混乱を避けるためにも講師の位置づけは明確にして欲しい。
- 豊中市個人情報保護条例の規定が他の自治体よりも厳格なため、今回府教委が示した規則改正を伴わない案では、教員の個人情報を収集することが困難である。条例に抵触する恐れがあり、実施について慎重に検討しているところ。

2、池田市

授業を評価するにあたって、保護者や子どもの意見を聞くのは大事なことであり、あくまでも参考にすべき。

大部分の保護者からアンケートが回収できるのか不安が残る。本校のように大規模校であれば、配布から回収、集計まで相当に時間を要する。それだけでなく多忙で、さまざまな面に目配りや心配りを行わなければならない校長の仕事であるが、このアンケートの実施により、負担がかなり増すことが懸念される。学校独自で実施している学校アンケートを改良して「授業アンケート」を作成できないかと考えている。授業アンケートで課題があると判断された場合、授業観察等の支援を行うことになるが、課題があると判断するラインを明確にする必要があるが、それをどこにもっていくのが難しい。また、支援が必要と判断した場合でも、それを本人に納得させる等、その実務をするのは校長等となっているが、学校では校長と教頭でしかできないと考える。

アンケート項目の数、内容、表記等について吟味する必要あり。授業の評価は初任者に求めるものと 10 年、20 年と経験を積んだ教師への評価とは違うと考えるが、同じものでよいかも検討する必要がある。事務面でも運用面でも「労多くして功少なし」とならぬよう、徹底してシンプルなシステムを作るか、逆に現場裁量を大きく認めるか、十分に検討いただきたい。

評価する側とされる側の理解と互いの信頼関係があって、この評価は成し得るものと感じる。制度を理由に実施されるだけでは、本来の意義が失われるのではないかと心配している。もちろん、生徒や保護者についても同様のことが言える。

3、箕面市

- ・すべて家庭で実施するのは無理がある。「生徒は授業で実施」し、「保護者は可能な範囲で家庭で実施」の方がよい。
- ・これまで学校独自で取り組んできたアンケートとの比較して、効果的が期待できるとは考えにくい。
- ・保護者と教職員の信頼関係が築きにくくなる不安がある。家庭と学校の連携の重要性が増す今日においてマイナスではないか。

4、能勢町

・教職員の授業を評価しても、授業力をあげるための工夫は必要である。つまり、研修や研究授業の実施である。このようなことに、時間をかけることより、教職員が高まる学校づくりをどのように進めるか各市町村教委及び府教委が努力すべきと考える。このような授業アンケートの実施した時のリクス、例えば気持ちのそろった教師集団でなければならないのにこのようなアンケートで分断されていく可能性も考えられるし、厳しい先生は低く評価される可能性もある。家庭でもそうであるように、学校でもいろいろな先生がいて、うまく役割分担ができていく所もあるので、もう少し他の方法を模索してほしいと考える。例えば、授業ごとに必ず児童生徒が評価をし、先生に提出、それを参考に先生自身が自己分析しどのように改善を図っていくか校長に計画表（評価・育成シートに記入するなど）を提出し、すべての教員が授業力アップに取り組むだとか、保護者には懇談・参観等を通じてリサーチするなど、方法はまだまだ十分検討の余地がある。本町のように、顔の見える関係で一定の歯止めがきいていて、信頼関係が保たれているので、学校教育等への影響を考えると実施すべきでないと考えます。

【以下は、各学校の意見をそのまま羅列します】

・生徒自身が、授業を受ける立場にあつて客観的かつ妥当な判断・評価ができるのであろうか。また、授業公開期間等を設けても学校に来て授業をほとんど見ていただけない保護者に対して、このようなアンケート調査をすることが適当であるのか。調査を実施しても釈然としない思いを払拭できない。

・小さな学校での授業アンケートの実施には無理があるのではないか

・教員の授業力の向上を目指すことは学校の重大な課題であることは間違いがない。そのために、「授業アンケート」の目的とするところも理解できる。しかし、本校のように学年最小人数2名、最大でも8名、合計28名の学校にあつて、「授業アンケート」が方法として有効であるとは思えない。家庭数20あまりで果たして客観的なデータが得られるのか、統計処理ができるのか疑問。小規模校から大規模校、また、校種一律に同一の手法で授業評価をすることが適切とは思えず、柔軟な授業評価方法を取り入れることが必要と考える。

・対象となる職員には大きな精神的・身体的な負担をかけていると思います。

・1学級4名以下の極小規模校である本校では、アンケート形式はなじまない。

・管理職であっても保護者とのふれあう機会が多いので、人間関係を密に保ち相互信頼関係を築くこと、その中で子どもを中心に据えた忌憚ないご意見が伺えると考えます。

・学習しやすい雰囲気は“おもしろい授業”ではなく、“子どものがんばりを認めること”は“何でも褒めること”でもないと考えます。子どもたちは得てして表面的自己中心的な評価に陥りやすいので、授業アンケートを保護者をお願いするのなら、全ての教科で参観を行い直接見てもらうことが必要だと考える。

・子どもからの聞き取りや年間数回の参観で保護者に教師の「授業力」を評価させようとする自体が、無茶なことだと思ふ。・すべて家庭で実施するのは無理がある。「生徒は授業で実施」し、「保護者は可能な範囲で家庭で実施」する方がよい。

5、豊能町

4 授業アンケート全般について、その他ご意見がある場合はお書きください。

記名式のアンケートでは、個々の教員のことは記入しづらいという意見があった。

保護者が授業等を見る機会は、年間数回程度でありアンケートの回答は断片的、伝聞的に評価されるため、客観的な評価よりも人物評価となり個人的な感情が反映される結果が多い。また、保護者や児童生徒が評価することに学校・行政への不信感を持つ保護者の意見もあった。

支援学級担任、専科、分割担当など、対象の児童生徒が限定される教員と、他の教員と同じ方法による相対評価は評価の公平性に疑問がある。

数値化されたデータのみを見た場合、教員への好き嫌い、指導が厳格な教員より甘いと思われる教員の得点が高い傾向にあり、授業力の改善・教員の資質育成観点から離れており、授業力評価の参考とするには難しい結果が表れている。

6、吹田市

4 授業アンケート全般について、その他ご意見がある場合はお書きください。

- ・評価者研修の一層の充実を図ってほしい。
- ・今年度、年度途中の試行実施となったが、各校において、封筒の代金を学校配分予算から支出せざるを得ない状況となった。
- ・本市では、児童・生徒や保護者の受け止めや学校現場の混乱に配慮し、常勤講師・非常勤講師（時間講師）をアンケート対象とした。来年度以降、改定に伴い「教職員の評価・育成システム」の対象外という理由で、常勤講師・非常勤講師（時間講師）がアンケートの対象外とされた場合、学校現場には、大きな混乱が起こることが予想される。
- ・来年度以降、授業アンケートの結果を個々の「授業力」評価票に転記した段階で、育成の観点から結果について話す場の設定が大切になると考える。
- ・授業力アンケートは、年に1回～2回と幅を持たせてほしい。

7、高槻市

記述なし

8、茨木市

- 4 授業アンケート全般について、その他ご意見がある場合はお書きください。
- ・校長からは、管理職の負担があまりにも大きく、時間や労力をかけただけの成果が得られるのか疑問であるという指摘が多い。また、学校に対して批判的な保護者の愚行を助長することにならないか心配する意見もある。
 - ・保護者からも、参観日に授業を見る程度では答えづらいという指摘もある。
 - ・配布から回収に至るまで、封筒へアンケートを入れることや開封作業など、配布準備や回収作業にも膨大な時間がかかる。
 - ・個人情報の保護や情報公開に敏感になっている保護者や教職員がいる一方で、封をせず（時には封筒にも入れずに）提出してくるケースなど、予想していなかったトラブルが続出している。

9、摂津市

- 4 授業アンケート全般について、その他ご意見がある場合はお書きください。
- アンケートは「授業」についてではなく、指導者（特に担任外）との人間関係で回答されている傾向がある。学校として児童の実態が異なり、授業アンケートは担任決定に課題が生じると予想される。
 - 児童生徒と同様に、職員の育成についても、個に応じた指導は不可欠である。個々の先生たちへの日常的な指導ができる学校にするために、生徒指導や学習充実のための職員の増員が望まれる。
 - 保護者に授業アンケートを実施することには唐突感があつた。保護者の戸惑いの声や記入されていても、観点に沿った回答というよりは、その先生に対する好き一嫌いの要素が強いように思われる。来年度、実施していくには、保護者への十分な説明が必要となってくる。その際、評価・育成システムに活用する授業アンケートを説明するには、現時点で不明な部分が多くあるように思われる。
 - このアンケート自体に反対（教師の信頼性を損ねる）されている保護者がいる。授業アンケートについて、職員から疑義の声（日の丸・君が代以上）が出ている。
 - とにかく生徒はまだしも、保護者と相談となると益々その信憑性が問われる。校長は、その結果にとらわれず、しっかりとその教員の授業力を見極める必要があると考える。また今後、保護者の学校への要望として、「参観日を増やして欲しい」「教員交代」などの声が挙がってくることが考えられる。
 - 年2回の実施は、作業量を考えると管理職にとって大変な負担である。年度後半の1回実施にしたい。また、自由記述欄については学校教育自己診断でも設けている。保護者の負担や処理作業のことを考えると「なし」にすることが望ましいと考える。さらに、大阪の教員の質を向上させるためには、採用の段階での処遇改善を行い、質の高い教員を確保するということが併せてご検討いただきたい。

10、島本町

- ・中学生以上の場合、感性的な好き嫌いで評価するケースも考えらる。小学生の場合、顔も知らない教員について、子どもからの聞き取りだけで評価することへの抵抗の声が保護者からあつた。このことから、選択肢に「わからない」を入れるべきだと考える。

・アンケート用紙の作成及び読み取り作業に時間がかかり、管理職の負担が増える。管理職として教員の意欲と能力を高めるためには、その時間をもっと有効な形で使ったほうが意義があると考ええる。

1 1、守口市

《実施上の段取りに関すること》（5件）

○日本語がわからない生徒のためにルビを打ったり、中国語や英語などの翻訳版を用意していただきたい。

○アンケート用紙、封筒など学校経費で準備するなど厳しい現状があり、学校現場の負担感がある。

○アンケートを提出しない保護者や故意に白紙で提出する保護者、保護者名が記されていない回収アンケートの扱いをどうするのか。

○支援学級在籍で、自分自身でなかなか意思表示ができない児童については、保護者のアンケート回答が困難であった。

○これまで学校においては、授業に関しても「学校教育自己診断」の中で項目立てを行い実施し保護者からの意見を求めてきた。それはとりもなおさず（独善的になりがちな）教員の授業改善を促すことを目的に実施してきたものである。今般目的が異なるとQAでは説明されているが、評価・育成システム上の「授業アンケート」を行う必要が本当にあるのか、疑問を呈する。あるいは、H25年度スタートというタイムスケジュールに拙速な感じが残る。これまでも本システムについては、研修会や説明会など府教育委員会の懇切、丁寧な進め方であったと認識しているが、前回の改善のあたりから時間的な余裕をあまり感じることはなく、市教委を通じての説明・実施へと進むことを強く感じるには個人的な感触・感想であろうか。

《保護者に関すること》（9件）

○算数科において習熟度別少人数指導を行っており、子どもが単元ごとに変わるので、年間を通して、複数の先生が指導するので、保護者が授業のアンケートを回答しにくい。

○保護者の中には、マークシート形式の授業評価アンケートでは教員の評価が出来ないと訴える声があった。

○署名をするなら、アンケートではないと、拒否された保護者が一部おられた。（同様意見2校）

○「先生は絶対であると教えているのに、このようにして評価するのはいかがなものか。」「保護者の目を気にしながら、気に入られるように先生方が日々の授業をすることになる。」「参観日ぐらいいし授業を見ていないのに、先生を評価することは難しい。」「先生を評価するのは管理職の役目でもある。」など、保護者からこのアンケートへの否定的な意見があった。（同様意見5校）

《教職員に関すること》（2件）

○今まで行っている学校教育評価と重複する点も多く、教師の授業力については、あえて、今回のようなアンケートを実施せずとも把握できることと思います。管理職の負担がより増加し、事務的作業に追われるというのが現場の実態です。（同様意見2校）

《評価の考えに関すること》（4件）

○保護者・児童・生徒の、担任に対する好悪感情での評価に陥っているのではと感じることがあった。

○記名式のアンケートにすることによって無責任な回答は減らせたとしても、逆に評価者が率直な意見を出せない場合も想定できる。（市教委へも苦情の電話が多数寄せられた。）

○小学校では、特に低学年の場合、保護者に正しく授業の様子が伝わっているのか明確でなく、アンケートの客観性が問われる。（同様意見2校）

1 2、枚方市

・保護者はすべての授業を見たのではなく、児童・生徒の感想に頼って記入している。こうした状況を踏まえ、少なくとも中学校では生徒対象のアンケートを学校で実施する形に変更すべきである。高校や支援学校ではこの形であるのに中学校でできないという根拠は無いと考える。

・保護者が授業を見たことも無く（またはいくつかの教科を1～2回見ただけで）評価することに無理がある。保護者からは参観のときに評価を受けるのが良い。

・児童・生徒は授業を評価するというより、それぞれの先生を好き嫌いや印象でランク付けする傾向があった。また、低学年のほうが評価が高い、担任の評価が低いという傾向があり、公平でないという声が出るのが予測される。

・必須5観点の設定に問題があるので再検討し、変更をして頂きたい。

①興味関心意欲の向上・・・児童生徒の好き嫌い・能力・生育暦等に左右される部分も大きい、教員の授業力として評価してよいのか。

④望ましい学習集団・・・学級のメンバー、状況に大きく左右されるのに教員の授業力として評価してよいかしんどいクラスに行くと損になる。

⑤適切な評価・・・がんばれていない又はがんばっていない児童・生徒からの評価は適切なのか。厳しい評価を受けた子はそれを適切と受け止めるのか。

・アンケートで問うことが具体的でない、答えにくいという声があった。また、読み取り方による曖昧さが懸念される。このアンケートは評価の資料とするので極力あいまいな部位分を大阪の授業スタンダードや「授業評価システム」活用の手引きに示された目指すべき授業を意識した具体的な観点、質問を提示してほしい。(年齢、学年に応じた文例を提示して頂きたい)

・授業評価アンケートの結果が、校長による評価の際の資料となり、そのまま教員の評価とするのではないことを明確に説明して頂きたい。誤解している保護者がいる。

・アンケートに関わる事務負担が大きい。校長、教頭が、教職員の授業観察はもちろん日々の業務を適切に把握し人材育成に取り組む時間を確保し、信頼される学校づくりに向けた地域連携、子どもたちの命を守る防災教育、危機管理など今日の学校が担う諸課題に精力的に取り組めるよう、アンケートの実施は年間1回の実施にして頂きたい。時期については6～7月を検討されたい。理由は児童・生徒が授業になれてきたことと、集計及び分析に十分な時間を確保し、研修に反映させることが可能であることです。

・事務環境を整えるため、イメージスキャナーの追加配布をお願いします。

今回の改定が、校長はじめ教職員の育成と意欲の向上につながるよう上記の点について検討のうえ、対応していただくようお願いします。

13、寝屋川市

・結果を教員や保護者にどのように伝えるかが課題である。

・保護者、児童による評価は、基準があいまいである。担任と保護者・児童の関係に左右されることが多いと思われる。

・このアンケートの趣旨は、本務者自身の授業力向上を目指して行うものであり、今後いかに効率的・効果的に教員個々に還元する方法の工夫と改善に努めなくてはならない。(集計に時間を費やしては意味が無い)

・集計について、管理職が実施することになるが、様々な課題対応を行っているなかで、とりわけ教頭先生への負担が増している。この点は改善していくことが大切で、実施方法や機器の整備や機能性向上等も含めて検討していただきたい。

・授業力向上のために、従来より授業アンケートを実施してきたが、来年度より教員の給与に反映されるので非常に扱いにくくなってしまった。

・外部評価に慣れていない教育現場なので、教員が萎縮せず育成に役立つことが実感できる授業アンケートになるように望みます。

・実施の意味は理解できるが、保護者の授業内容や指導法についての理解が十分でなく、観察の時間も意識も少ないために、評価が他の要因に左右される。今回は初めてであった点を差し引いても、マークシートの手直しや読み取り時の誤作動などデータの集計等にはかなりの時間が必要であった。現時点で、授業評価という観点では、その労力ほどの価値を見出せない。

・現行の『評価・育成システム』の何が問題であったのかが明確にされずに、授業アンケートの手段のみが導入され学校現場での納得性が得られにくい状況である。現行システムの問題点を明文化し その対策としての新たな手段の導入というごく当たり前のステップがみえない。

・議会との折衷案としてのアンケートと理解しますが、労多くして実の無い結果に終わるのではないのでしょうか。保護者アンケートは、①保護者の学校への関心を高める②教員に保護者を今以上に意識させ授業改善に向かわす③学校と保護者で課題を共有する という視点が必要だと思います。教員の資質基準書(授業力だけでなく服務規律、生徒指導等の要素も入れた)を第三者機関で作成の上、ゆるやかな相対評価に踏み込む方が社会から認知されるのではないのでしょうか。

・学校が抱えている課題に対して有効に活用していかねなければならないが、本当に役に立つのかという不安がある。給与カットも長年続いている。このアンケートもそうだが、多忙の上に雑用が多すぎる。さらに保護者との信頼関係にひびが入らぬように慎重を期していきたい。

・今回の改訂により、授業アンケートの評価だけを意識した授業にならないか心配である。

14、大東市

・低学年、支援学級児童へのアンケートについて、保護者と一緒にアンケートに回答するようにはなっているが、実際には困難である。

・教職員の授業力の向上のために、真摯に受け止める必要はあるが、評価育成システムに反映する参考資料にする内容であることに疑問を感じる。評価育成システムを施行して、学校力が向上したという事例はないように感じている中で、今回の授業アンケートを必要であるかの疑問が残る。

・小学校(特に低学年)では、担当教員の数も少なく、未記入部分が多い。回収している用紙には、未記入部分にも記入があり、訂正しなければならない箇所が数多く見られた。

・授業アンケート用紙がA4サイズであるため、封筒も少し大きめのものを準備したが、ランドセルに入りきらず、結局は半分に折って家に持って帰ることになった。

・用紙代、封筒代、プリンター等のインク代等の負担が大きい。

・教員のある一部分だけを見るのではなく、日頃からいかに教材研究に取り組んでいるかや、子どもたちの実態をいかに把握しようとしているかなど、授業の中だけではない努力の部分も観察、評価していく必要がある。

・授業アンケートは、一つの指標であるが、これを前面に出して、授業力の向上を図ることはできないと考える。

・「新しいことを導入する際は、今までの何かをスクラップしないと増える一方であり、そのことが学校現場の多忙化に拍車をかけ、ひいては授業力の低下を招くのではないか」「教員採用試験の倍率の低下に加え、大阪から、優れた人材流出の一因になりはしないか」といった意見等、いろいろな意見があり、授業アンケートの周知(主旨理解・保護者への協力要請等)に苦慮した学校がある。

・保護者からは、授業アンケートについて、教員の評価に公平性が欠け、内容を点検すべき等の意見が寄せられている。府教委に授業アンケートについての質問等を受ける窓口設置が欲しい。

・授業を見たことがない先生の評価はできないという問い合わせが多数ある学校もあった。

・次年度から能力評価の「学ぶ力の育成」が「授業力」という評価要素に変わると聞いているが、業績評価の「学ぶ力の育成」は「授業力」に変わるのか教えていただきたい。

15、門真市

・授業アンケート実施にあたり、費やす時間が膨大であった。

・授業アンケートを参考にし、教員にできるだけ正しい評価になるよう、日頃からの教員への声かけ、授業観察をこまめに行いたい。

・授業力の向上に役立つよう、教職員との信頼関係を大切にし、保護者に対しては制度の趣旨を理解していただき、積極的に学校教育・学校運営への協力をしてもらえよう働きかけていきたい。

・膨大な時間とエネルギーを費やしてまでも実施すべきなのかどうか。学校現場(特に管理職)が抱える様々な負担や一部の職員との軋轢をどのように軽減していくのか、しっかりとした議論が今後も必要であろう。

・校長は保護者よりも多く、丁寧に授業観察している。子どもや保護者の評価も大事だが、校長の評価の

方がより生かされるようにしてほしい。

- ・保護者によってはほとんど授業を参観していない方もおられる。それで評価をつけてもらうのはどうか(小学校)。
- ・学校独自のアンケートと重なる部分が多いので、本校としては不要。

16、四條畷市

- ・煩雑な事務を複数回実施するのは、大変困難である。
- ・保護者がほとんど授業を見ていない教員の評価をするのは難しいのでは。(特に低学年)
- ・公開(開示請求等)への対応が複雑で分かりにくい。
- ・できればこのようなアンケートではなく日々の授業を観察している校長に任せてほしい。事務作業が大幅に増え、益々大変である。

17、交野市

- ・意図的に白紙で提出する保護者もいた。(理由は【保護者の意見について】に記載)
- ・保護者が児童生徒から聞いて記入する場合、客観性に欠ける。
- ・中学校の教員については、家庭で話し合っただけでアンケートに答えることになっているが、保護者には全教科の教員の授業の様子は分からないので、生徒だけの評価になる。その場合、授業の内容ではなく、生徒の好き嫌い、例えば服装や決まりごとに厳しい先生には低い評価をつける、などで評価の信頼性が薄いように思う。
- ・保護者の署名欄があるが、保護者が署名したか生徒が保護者の名前を勝手に書いたか、厳密には判断できない。保護者と子どもがよく話をしているか不明である。
- ・記名にすることにより、中学校では「子どもの成績に影響するのでは」との問い合わせの電話が複数あった。
- ・自由記述欄は、同じ事柄であっても正反対の意見が書かれる場合がある。アンケートをとる限りは、アンケートから見えた課題や改善方策を保護者に示すべきと考えるが、正反対の意見がある内容に対し、改善方策を示すことは困難である。改善方策が示されないアンケートならする意味がないと考える保護者もいるであろうし、自由記述欄はない方がよいと考える。
- ・意図的に評価を最低につけたりということが懸念される。
- ・学力学習状況調査や学校教育アンケート等で、年間2～3回、教科の授業内容や学校全体の授業の課題等に、児童生徒や保護者から答えをもらっているため、アンケートだらけという印象を与える。
- 【保護者から寄せられた意見について】
- ・先生の授業内容まで十分把握して評価することはできないので白紙で提出させていただいた。今後、このようなアンケートは実施しないよう保護者の意見としてお伝え欲しい。
- ・クラスに「しんどい」子が多い場合、このアンケートでは評価が低くなる。「しんどい」子、「しんどい」クラスの持ち手がなくなる。
- ・「授業アンケート」については、いくらアンケートの内容や方法を考えても大阪の学校の教育力向上には繋がらない。市場原理や成果主義を教育の場に持ち込んだところで害があって利はないことが、評価育成システムを導入して判ったことではないか。これまでの、大阪府教育委員会の取り組みの成果として、教員採用試験において近隣他府県に比べ志願者が異常に少なく中学校で二次募集をしなければならなくなったことをよく考えるべき。講師の確保も難しく欠員を出すような状況でこういったアンケートを導入して、大阪の教育の未来はどうか恐ろしく感じる。莫大な時間と労力をかけて教師のモチベーションを下げるだけのこんなアンケートはやめるべきである。
- ・このようなアンケートの存在が先生方の多大なストレスにならないだろうかという懸念がある。
- ・これから教職を志望する人たちが、その道を敬遠し、優れた人材が減ってしまうのではと心配している。
- ・授業の理解度をどこまで分析できるか疑問がある。
- ・主観が多くはいるアンケートが、直接人事に影響することに危惧を感じる。
- ・親や子どもたちが教師を評価するという一方で、子どもが、先生を知らず知らずに見下してしまうおそ

れを感じる。

- ・授業改善ということだが、先生の評価としてとらえられるのかよく分からない。
- ・先生の評価に繋がるかもと思うと、いい加減には答えられない。
- ・「授業を受けて、その教科の内容をもっと学習しようと思いますか」の問いについて、うちの子は、勉強が嫌いなので、先生の努力とかの問題ではない。この問いに素直に答えるとすべてDとなる。
- ・「各授業を受けて、その教科の内容は分かるようになりましたか」の問いについて、具体的な例でなければ、漠然としていて答えようがない。どれくらいまで、自分の子がどれくらい理解しているのかよく分からない。
- ・「教科の内容が分からないときやもっと知りたいとき、そのことについて教えてもらえますか」の問いについて、聞きたい、質問したいと思うことがない(子どもの意欲がない)ので、返答しかねる。
- ・今回のアンケートは、保護者にとっても子どもたちにとっても受け取り方が色々で、きちんと厳しくしている先生がやる気が出るとは限らないし、ゆるくて、それが楽しいと思う子どもは、そういう先生がよいと思うだろうし、保護者は、逆だったりするかもしれない。参観を見ての感想や日頃の宿題について等具体的な質問でなければ答えが難しいし、また、その受け取り方が様々な返答を集計して参考になるのか疑問である。先生だけでなく家庭にもよるので、先生だけの向上で子どもが伸びるには限界があると思う。
- ・教員の給与等に関することに関わりたくない。
- ・参観日にその場で実施して欲しい。
- ・授業を見たことがない先生については答えられない。
- ・我が子から聞き取るとその日のことしか覚えておらず、結果に信憑性があると思えない。
- ・教員一人ひとりの単票にしてほしい。
- ・質問の意味が分かりにくいので、もっと具体的な質問内容にして欲しい。
- ・記名式なので答えたくない。

18、東大阪市

- ・全教科において、「授業評価アンケート」を年2回実施してきた。そのようなものを活用できないか。授業力の向上を目的に同じようなアンケートを複数回させることになる。
- ・授業評価の最大の目的は、各教員が集計し、課題を認識した上で取り組むために活用することである。
- ・全ての学校に共通した評価基準が設定できるかどうか疑問。
- ・保護者と教員との人間関係で公平な評価ができるのかどうか疑問。
- ・授業を見ていない保護者が評価について子どもと話すことの難しさがある。
- ・保護者にも負担が大きい。
- ・「わかる」ということを前面に出すのではなく、授業への参加度やここの実態に応じた学習目標が達成できているか、子どもの様子を評価する観点を中心にするのが授業力向上に必要。
- ・子どもや保護者の力が強くなり学校運営が難しくなるのではという意見が地域や保護者から多く寄せられた。
- ・年2回のアンケートであるが、形骸化して年々提出率が下がるようなことにならないか危惧している。
- ・教職員にはあくまで校長が評価者であることを再確認したが、それならばこのアンケートに意味があるか、と言う疑問も寄せられている。
- ・支援学級の児童生徒のアンケートがをどのようなものにするのが一番よいか考えている。
- ・現状で学校独自として行っている授業評価アンケートを活用したい。(既存の取組みを活用したい)
- ・授業アンケートにかかる労力を考えたときに、それに比しての効果に疑問が残る。
- ・教頭の複数配置も含めて事務軽減の方策を考えてもらいたい。
- ・授業改善のためのアンケートは必要である。しかしながらそのやり方については学校それぞれの方法を尊重してもらいたい。また、あくまで評価者は校長であり、アンケートは子どもの受けとめを知るものであると位置づけるなら簡素なもので事務作業の軽減できるものであってもらいたい。

19、八尾市

学校長から寄せられた意見

- ・先生が好き嫌いや教科の好き嫌いで判断していると思われるケースがあり、授業力の評価として疑問がある。
- ・授業力が高くて厳しく指導する先生の評価が低く、授業力がさほどないのに甘い先生の評価が高くなる傾向がある。
- ・保護者が授業を正当に評価できるかどうか甚だ疑問である。
- ・評価基準が曖昧で、正しい評価が得られない。
- ・勤労意欲、資質向上、子どもの成長につながると思えない。
- ・事務量、コストがかかる割には効果が期待できない。
- ・教科によらず画一的な評価項目では授業改善につながらない。

保護者から次のような意見が多数寄せられた。

- ・授業を見たことがない先生の評価は極めて困難である。→参観時に記入、提出。
- ・アンケートそのものに賛同できない。
- ・記名式だと、正直に記入できない。→無記名に。
- ・進学で不利にならないかと心配があり、提出をためらう。→無記名に。
- ・項目が多くわかりにくい。→小、中学校も、高校と同様に、2項目を児童生徒が学校で記入。
- ・子どもと先生の信頼を壊す危険性があり、賛同できない。

19、八尾市・支援	(なし)
-----------	------

20、柏原市

- ・授業を客観的に見ていない可能性もあり、保護者どうしのうわさ等で、恣意的に判断する可能性が十分考えられるので、授業アンケートでは、教師の授業改善につながらない。
- ・評価者として、保護者への教育も必要となり無理が生じる。
- ・中学校、高校と違い、小学校では低学年と高学年と発達段階にかなりの差があるため、授業アンケートでその教員の授業力を評価することはむずかしい。高学年の担任を希望しない、また担任させることが難しい教員であって低学年では無難に授業できることも多い。一方、低、中学年で授業規律が崩れ、学校に対して不信感を抱いてしまった保護者が多くなっているときは、力量のある教員が担任、教科指導をしてもアンケートの評価は低くなる可能性も高い。管理職はそれも理解して評価をするが、アンケートを記入する側の保護者、評価される教員にとっては理解しにくいものである。
- ・あくまでの教員個々の授業力を向上させるという意味で、日常的にポイントをしばって授業評価していくことが重要であるとする。
- ・断片的にしか授業を見られない保護者にとって、間接的とはいえ個人の評価に関わるアンケートを提出することへの負担感は思う免れないと思う。

21、富田林市

4 授業アンケート全般について、その他ご意見がある場合はお書きください。

- ①保護者の中に、「このアンケートは、これまで学校・教員と保護者が築いてきた信頼関係をこわすものである」「このアンケートは意味がない、中止するべきだ」という意見があり、実際に「子どもに教員の評価をさせていいのか」という疑問の声が多くありました。
- ②保護者が担任の評価を下してしまうことで、保護者の側から、担任に話がしづらくなってしまおうという声がありました。また、具体的なアンケート項目について「評価基準がない」「評価することができない」という声もあり、より回収率を高めるためには、具体的に「わからない」という項目を入れるべきであると考えています。実際に一定時間参観できない保護者が「授業評価」することに無理を感じます。
- ③アンケート実施について、保護者に十分な理解を得られているか疑問であり、その意図も含め校長が保護者に説明する場を持つべきであるという意見がありました。
- ④アンケートの結果が教員の評価につながるとなれば、子どもに迎合する教員、厳しさのない教員を育成することになりかねない危惧をもっています。「先生には、本気で子どもを叱ってほしい」という声があ

るが、それができなくなると保護者が心配しています。

⑤アンケート用紙代、プリンターインク、回収袋等の経費がかかります。府の計画で実施するものであることから、府がその経費を負担するべきです。

⑥このアンケートと「教員の授業力向上」には、保護者に説明できる関係性を見いだせません。教員の評価は、校長が責任をもってやるべきであるという意見がありました。

⑦児童・生徒の評価は一方的なものが多く、教員に対する、好き、嫌いという意識が根底にあり、子どもの発達段階もあり児童・生徒評価の限界を感じます。

⑧平成25年度、「授業アンケート」を計画（案）では2回実施となっているが、その意義を認められません。実施するのであれば、1回で十分です。

①～⑧は、校長からの聞き取り、保護者からの苦情、保護者との応接で出された意見の一部であります。市教委としては、今後の「授業アンケート」の実施にむけては、保護者評価を実施しないなど、抜本的な改善が必要と考えております。

2 2、河内長野市

・授業アンケートを実施することにより、教員と子どもの信頼関係が崩れるとの不安の声は大きい。また、アンケートの配布時点での学級の状況や子どもや保護者との関係等に左右されることも考えられるため、本来の教員の授業力を判断するための資料となっているか疑問の声がある。これらの不安を払拭するため、制度の再構築も含め対策をお願いしたい。

・アンケートの作成やデータ集約、授業観察などの業務が煩雑であることから、実施回数等、制度の簡素化について検討願いたい。

・授業アンケートの結果をアンケート対象者へ提示する様式は、市町村や学校単位とせず、府教委が標準形を示されたい。

・アンケートの配付時期のタイミングが難しい。参観日前に配付した学校では、その日だけの授業評価となってしまった感がある。

・市個人情報保護条例と市情報公開条例に抵触しないために、府教育委員会規則に授業アンケートの実施について定めて欲しい。

2 3、松原市

・数回の授業観察と日頃の子どもの言葉からでは、保護者は回答しにくいのではないかと。「どちらとも言えない」が必要。

・保護者がわからない部分も多いと思うので、アンケートの回答欄に「どちらとも言えない」等の項目も必要だと思う。

・何のためのアンケートなのか、授業アンケートの目的をしっかりと説明して保護者の理解を得る。

・すべての教員について細かく評価することが結果として保護者にとって記入しにくい側面を生じている。保護者が評価できる機会の充実とともに、評価方法の簡素化も必要だと思われる。

・どこまでアンケートの信頼性を担保できるかの検証が必要。

・保護者アンケートなるものは、本当に保護者が理解できるものであるのかという疑問がある。回収率も読めず、その中で評価が行われるというのは、本当に正しいことなのだろうかという疑問が絶えず頭から離れない。

・保護者が1、2度授業を参観しても、教員の授業力向上に向けた意欲や達成度等客観性のある評価が得られるとは考えられない。

・保護者の回答（A～D評価）に、「どちらとも言えない」も加えるべき。

・自由記述欄は必要ない。

・アンケート用紙、インク、封筒等の消耗品費を確保してほしい。

・授業アンケートが次年度から年二回実施になると保護者に負担となる。また、情報公開請求などが頻繁に行われると課題も大きくなる。

・教員の授業力の判断は、校長の経験に基づき、教師の言葉の浸透度、学級の人間関係、正確な指示、ぶ

れや迷いのない視点から校長自ら判断します。そこには、指導者の明確な判断があり、児童の評価や保護者の評価は、あまり必要とは感じません。

・授業アンケートは、学校長に権限をと言いながら、学校長の指導性や経営力を信用していないことになる。配って、回収して、集計して、デジタル化したもので評価するのでは、アルバイト学生にもできること。権限を与えて、自由にやらせてもらえないと学校経営などできない。

・生徒へのアンケートで十分であるように感じる。保護者へのアンケートは、学校教育自己診断との趣旨の違いは理解できるが、保護者には二重の負担となっているように感じるので、内容の精選や実施時期・回数への考慮を必要であると考え。

・学校単位での作業量が多すぎる。

・上記の問題を解決するためにアンケート処理ソフトがあるが、作業量が少なくなると実感はあまり出来ない。

・スキャナー読み込みについても、JPGでもカラーでも読み込める汎用性が必要。(使える機器が限られてしまう)

・授業アンケートの項目に、「どちらとも言えない」が必要と考える。自由記述欄は、学校教育自己診断と重なるので必要ない。

・アンケート回答項目にどちらとも言えないを追加すべき。生徒や保護者によるアンケートで教員のモチベーションを如何に高めることができるかを示すべき。校長の裁量を高めることができているか。客観的評価につながるかは感じられない。授業アンケートを実施することで、学校と保護者との信頼関係が深まる道筋を明らかにしめすべき。中学校も生徒によるアンケートにすべき。

24、羽曳野市

現場の多忙な現状の中での、アンケート作成・配布・回収・集計・授業観察・指導・評価と管理職の業務をより一層過酷にさせるものである。

25、藤井寺市

(なし)

26、大阪狭山市

・保護者の評価基準が大きく違っていることから授業アンケートの結果と授業の実態との間に差があり、授業力を分析する指標にならない。授業力の育成の面では、積極的に活用したい。

・授業力改善のためのアンケートであれば、年間2回で早い時期に行うことの効果も期待できるが、職員が直接アンケート結果を見ずに集計結果のみを知るといったアンケートであれば、実施にかかる時間や管理職の負担、費用などを考えると、年度後半に1回でよいのではないかと。

・保護者はよく協力してくれているが、教員の授業力を把握した上での回答ではなく、多分に人気投票的要素が多くあり、信頼性があると言えない。

27、太子町

・小学校の場合、特に低・中学年ぐらいなら、結果の妥当性が疑われる。「授業力」の評価ではあるが、人物の好悪が結果を左右することも大いにあり得る。

・職員によって評価を受ける児童の数に大きな差があるので、単純に評価の数値を比較できない面がある。

・今年度出された課題が、来年度の一つでも多く反映されることを願う。

《太子町教育委員会》

教員評価については、条例に基づき府教委の計画のもとに市町村教育委員会が行うものと規定されているため、実施方法・内容についての意見とさせていただきます。

①授業アンケート・授業観察については、教職員を評価する上で、あくまでも参考とするための一部の資料であることを府教委より学校管理職への事前研修等を通じて説明願いたい。

②授業アンケートの質問項目や、授業観察の観点項目等については、市町村や学校としての独自性も少しは必要であるが、広域異動を活発に行っている本地区や本町の状況から、大阪府の教職員として、どの教

員にも共通した評価の観点（必須）の提示がぜひ必要である。

③教員の指導力改善のためには、評価を行った上での管理職から教員への指導の視点や効果的な指導方法を示していくことがより重要な視点であると考え。長年の実績のある教育センター等との十分な意見交換の上提示していただきたい。

28、河南町

- ・教員評価支援チームとはどういうメンバーなのか校内組織なのか、指導主事等も含む校外メンバーも含むのか。
- ・授業観察において、校長、準校長の観察を取り入れているが、研修部部長や学年主任の授業観察は取り入れなくていいのか。他の教師の授業観察も取り入れることでより授業力の向上につながるのではないのか。保護者だけでなく全教職員も授業アンケートに参加することで互いの力量が上がるのではないのか。
- ・各学校では、従来から校内研究授業を実施していると思われるが、その討議会、反省会等で出された授業に関する指導助言、意見、評価等は加味しないのか。特に、専門的な外部講師の指導、助言、意見は授業力評価に大きく影響があると思われるがそれをどれぐらいの割合で評価判断の基準とするのか。
- ・校外研究組織、市町村での授業研究組織で取り組んだ研究授業は、より専門的な教科の観点で授業を推進しているが、そこでの評価をどう反映させるのか。この評価結果についてもどれぐらいの割合で評価判断の基準とするのか。
- ・アンケートの記入の仕方、保護者がまちがっている人が多く見受けられる。記入していない箇所は、消してしまう方がよいのでは。
- ・フリー参観を設けても、保護者にとっては評価する判断観点が明確でない、主観的に判断しているのではないのか。そのため、どの教員に対しても同じような結果になっている場合が多く見られる。
- ・学年によって回収率の差が激しい。また、回収しても空白欄が多く見られる。

29、千早赤阪村

授業アンケート結果の何をどのように利用するのか表示や明記がなく、開示についてもなんら触れられていない。このようなアンケート実施については法的にも問題があるのではないかとのご意見もある。

・保護者の記入意見より

「これは先生の評価をすることですか。人気取りに走るとかの弊害も考えられますので協力できかねます。」

・教育への評価とは、その時点では「あんな教師！なにもわかってない」という評価であったにしても、例えば、数年経って、あるいは大人になって「あのときの先生の言っていた意味が今わかりました。」ということが多々あるものです。そういう長い目で育てる視点も大切です。こういう短期的な評価を意識すると、そういう大きな意味での教育が後退するおそれがあるように思います。

30、泉大津市

アンケートを保護者を対象にする場合、インターネットを利用して、パスワードを付与した上で、自動計算するのも一つの方法ではないかという意見があった。

学校教育自己診断に加えて、既に生徒に対し年2回20項目のより詳細な授業評価アンケートを行い、授業改善の取組みと評価に生かしている学校もあり、校長の授業評価の参考とするならば、そのアンケートで十分であり、是非これらを活用することを可能としていただきたいという意見があった。

31、和泉市

以下の点より集計結果を個々の教員の指導育成にどのように活かしていくかが課題であると感じた。

・保護者の中には記名について相当の違和感を示す方もおり、本音を書くことで子どもが不利益な扱いを受けるとの懸念があり、やむえず無回答やオールAの回答を行っているとの意見があった、市教委への問い合わせも多くあった。

また、教員評価に関して疑問を持っている方もおり白紙回答も多数あった。

回答については、設問が5か所しかないのに6か所マークしているアンケートや、質問の意味を十分に理解して判断したと思えない回答も散見し、信頼性に疑問を感じた。

・数名の校長より、アンケート集計結果については、「愛情をもって厳しく児童生徒に接する教員の評価は厳しく、しっかりと指導していることが評価されていないように思う」との報告を受けた。

アンケートを実施したからには、結果を保護者に返す必要があるが、信頼性に欠け曖昧さが残る集計結果を返すことには相当の疑問がある。

その他の意見要望として以下の4点が挙げます。

・教員の授業のみのアンケートだけでなく、児童生徒自身が授業を受ける心構えや態度について記入できる欄を設けられないか。

・「わからない」「どちらともいえない」という選択肢も必要ではないか。

・評価育成システムとは切り離れた形で純粋に「授業改善」につながるようなアンケートにできないものか。

・府教委の計画の下、同じようなアンケートを実施しているのに、各市において情報公開請求に対する対応が違う。統一できないものか。

今年度試行を行い、課題が浮き彫りになり、他の市町村でも同様の課題があげられていると想像できる。

府教委においては、共通項を取り上げていただき誰もが意義あると思える方法を考えていただきたい。

3 2、高石市

・授業力アンケートの項目が抽象的で保護者が記入しにくい。観点を絞り、具体的な例示を示す必要がある。

・アンケートの記入者氏名欄があることに對し、保護者は正直な評価が記入しにくいという意見が出ると思われる。

・授業者全員の評価を保護者に委ねることは困難であり。

・高校の評価項目が小中学校より少ないこと、保護者の意見を聞かないことはおかしいのではないか。

・スケジュールがあまりにも拙速すぎる。せめて1年間の試行期間を設け、課題を把握し、修正した後本格実施にすべきであった。

3 3、忠岡町 (なし)

3 4、岸和田市

・保護者は、仕事で多忙な中、各学級担任のすべての教科の授業を参観し、授業アンケートで授業を評価するに足る十分な情報を得ることは不可能である。参観ができなかった授業について、子どもに聞き取りをしたとしても、十分な情報を得ることは難しい。子どもが低学年や支援学級在籍児童であるならばなおさらである。

・保護者が授業を参観できたとしても、その授業の目標や教材の良しあし、指導方法、教員の指導力、子どもたちの理解度等、どの程度理解した上で、評価できるのかが不透明である。

・授業アンケートの評価内容の不確かさ、実施自体の困難さを考えると、今後継続的に実施していくことは、無理があり、意義を見出すことはできない。保護者には、学校教育自己診断で評価していただくだけで十分ではないかと考える。授業評価は、評価・育成の観点から、管理職や同僚がやる方がよいのではないかと思う。

・調査は年1回でよいのではないか。年2回を毎年行うことは、現場の実態を考えると、保護者のとってもマンネリ化につながったり、職員側の意欲が差がたりして効果的ではないと思う。年1回実施し、その後は各校に合わせて、こまめに児童保護者の意見を吸い上げる方法をとった方がよい。

・授業アンケートと学校教育自己診断との兼ね合いを考えたい。

・授業アンケートが、授業力向上につながるように学校全体で意識改革をする必要がある。

・来年度は、年度中に2回の実施を想定しているようだが、1回実施が望ましいと思われる。また、授業の改善、授業力の向上を意図して行われるものであることから年度の早い段階での実施は疑問

がある。

・授業アンケートは、第3者の意見として有効かもしれないが、保護者が的確に授業評価できているかどうかは疑問である。

・授業アンケートは各教職員の力量もためされますが、校長自身もためされると認識しています。授業力だけでなく児童や学級、学年の実態とともに、各教職員の思いも同時に把握しなければなりません。保護者の願いに応えるためにも授業アンケートを有効に活用します。

・職員の中には「一部の保護者が恣意的なアンケートをするのではないかと危惧する声があります。

・保護者からは、回答について子どもから聞き取るのだから、人気のある先生の評価がよくなるように感じるので、初期の目的のように、個々の教職員の授業改善につながるかどうか疑問である、という声が届けられている。

・質問項目では、保護者にとって見やすく、わかりやすいものに改善できればと考える。

・本校は、小規模校で集計も容易だったが、それでも入力・印刷・回収・確認等の時間が大幅にかかった。

・「授業を見ていない教師の評価をすることに抵抗がある」「どう答えて良いかわからない」という保護者の声がある。記名回収なので誰がこれを読むのかなど保護者のも戸惑いや混乱がある現状で、評価育成システムの授業力評価のためにこの授業アンケートを使っていくことに疑問を感じている。

・保護者から次のような意見があった。

①授業アンケートにはとても不愉快と違和感を感じます。子どもの評価は本当に教育を考えて、よいわるいのみで判断するものではないと思うし、先生の名前をあげて成績をつけるようなやり方には反対です。(府からの指示なのでしょうが)色々な子がいるし、色々な先生がいる。合う合わないがある。そこをとお互い成長していくものだと思うのですが。この評価だけで先生の評価をするなら、とても危険なことだと思います。

②授業アンケートですが、生徒名が書いてあると、なかなか正直に書きにくい所もある様に思うのですが。

・各教科の特性があり、各教諭の指導法の工夫がある。そのような取り組みの中で、一律な内容で授業アンケートがある。各教科のごとのアンケート内容が必要だと思います。

・授業アンケートをPTAの実行委員会に回ったところ、答えは「意味のないアンケートですね」でした。このような内容の授業アンケートは必要ありません。

・現在の評価育成システムは定着してきている。管理職は職員を評価するのに日々の観察や授業観察などを通して総合的に評価している。また、生徒による授業評価も進めてきた。なぜ、保護者の評価が必要なのか。教育行政にあまりにも行政がはやり過ぎている。教育委員会はもっと独立性を持って取り組んで欲しい。

・職員が、生徒の全体的な意見としてとらえる機会としてはよいと思う。職員が、授業を今よりもさらに、真剣に考える機会となればと考える。

35、貝塚市

○保護者は、日頃の授業の状態を十分観察しておらず、子どもの意見のみを参考に記入せざるを得ない。客観性のある回答にはなりにくい。

○保護者からは、「先生の人気とりになるのでは?」「授業の様子を見ずには記入できない、協力しにくい」などの意見が多く寄せられた。「うちは親の判断で提出しない」「白紙で提出する」などの意見も多くあった。

○担任外の教員の判断ができないという意見が多い。(特に小学校)

○保護者からも「このようなアンケートはあんまりな感じ」という声がある。

○折り曲げると集計が難しいということで、封筒に入れて提出をとったが小学生には持ち運びしにくかった。

○学校現場も保護者も忙しい中、アンケートを実施する意味があるのか。

○保護者が授業も見えない教員の授業を評価することは不可能である。教師と保護者の信頼

関係が崩れる。

- 学校では、学校評価アンケートを実施している。その中で学級毎に集計を行っているので、新たなアンケートの必要性は感じない。何度も同じようなアンケートを実施することは、保護者の不信感を生むことにもなる。学校評価アンケートで対応できないか。
- 授業力向上にはつながらず、担任不信・担任の保護者警戒心を拡大すると考える。授業力は不断の努力と研修によってしか向上しない。
- アンケートを実施する時期によって評価が変わるのではないか。生徒と保護者が一緒になって教員批判をすることにならないか。教育的ではないと思うが。
- 日々生徒指導の問題が多発している中で、一人一人の教師の授業観察や授業力を的確に観察し、評価できるか不安である。保護者の評価と齟齬をきたした場合、納得させるだけの的確な観察が十分にできるかを課題として感じる。
- かなりの労力が必要。本格実施では2回行うと聞いているが、もっと簡略化できないか。
- 配布時期を考慮しなければ、思わぬ評価になることが考えられる。
- 授業力については、普段の授業観察でアンケートよりも客観的な評価が得られる。
- 情報公開について、事前の保護者への説明も含めて不十分な部分があり混乱した。事前により詳細な情報提供をいただきたい。

3 6、泉佐野市

- ・実施回数を年間1回以上としてもらいたい。年間2回以上実施することでの負担が非常に大きい。教員への負担が最大であるが、財政的な負担や保護者等への負担も大きい。年間1回以上と改めてもらいたい。年1回で6月～7月に実施・回収し、夏季休業中に結果の集計を行うことにより、負担も軽減される。
- ・中学校の授業アンケートを高等学校と同様に生徒の回答のみの実施にしてもらいたい。高等学校と同様に必須質問を2問設定することで十分である。授業に対する生徒の意識をこの2質問で問うことで、評価・育成システムに十分に活用できる。生徒による評価のみで十分である。
- ・授業力の評価については、これまでも校長が日ごろの授業観察を行って「学ぶ力の育成」や「自己実現の支援」に関連して評価・育成に努めてきた。また、保護者に実際に授業参観等で授業を見てもらった中で、その都度アンケートをとって保護者の声を把握してきた。今後実施していく授業アンケートの回答がどれだけ信頼性があり参考になるか疑問である。さらに、アンケートシート作成、集約に費やす備品や消耗品の問題、配付、回収等一連の作業も課題が多い。
- ・保護者による各教師の授業力評価にはかなり無理がある。授業を年間数回しか（場合によっては0回）見ていない保護者に正確な評価ができない。評価結果を見ても、授業力の不十分な教諭の評価が良かったり、しっかりした授業をしている教諭の評価が悪かったり、保護者評価は信用ができない。授業力と言うより感覚的な評価や噂、または子どもの意見が大いに作用されている。また、少人数担当など児童に生徒指導等あまり関わりのない教諭の評価が良いのも気になる。保護者評価は、自己の反省に生かすには良いかもしれないが、評価育成や給与に反映することは大きな問題を抱えている。
- ・授業アンケートの実施は拙速すぎる感がある。保護者からもすべての授業をきちんと見られるわけもなく、子どもの意見を主に聞いて評価することで、正しい評価ができるのか疑問であるという意見もいただいた。実際に授業内容等を公平に判断して評価しているといい難しいアンケート内容もあった。授業中あまり注意せず、淡々と授業を進めている先生の評価が高かったり、小テストや細かな点検等を常に行い、丁寧な指導を行っている先生の評価が低かったり、授業実態との乖離が見える部分もある。また、学級、教科担任との人間関係が授業評価に如実にあらわれているアンケートもあり、信頼度にかけるのではないかとと思われる。授業評価については、従来より各教科で授業アンケートやふりかえり用紙などを使って、子どもたちの実態や意見を丁寧に取り上げてきている。今回のようなアンケートは管理職の時間的、精神的負担を増すばかりで、実際どれほど信頼性があり、教員の授業力向上に効果があるのか疑問である。
- ・保護者アンケートの結果を気にするあまり、教師が保護者や児童に迎合することも考えられる。また、このことによって、本来の学習活動が円滑に進められない事態も考えられる。

37、泉南市

○日々の授業をずっと観察しているわけではない保護者が、子どもからの聞き取りだけでアンケートに回答することには、かなり無理があるように思います。厳しい指導が必要な時に子どもの為に厳しく指導するタイプの先生がだんだん減ってくるというのも心配です。ほとんどの保護者は、担任の評価を授業だけで評価していないと思います。その他の教育活動を総合的に子どもの様子（成長）から判断しています。それゆえ、多くの保護者にとって、授業評価はなじまないのではないのでしょうか。授業参観後の授業評価の方がなじむのではないのでしょうか。

○保護者による授業評価は、各クラスによって子どもの実態が違い、公正な評価とは言い難い。また、年数回の授業の参観のみで評価を行うことは、かえって無責任な評価につながる。さらには、授業参観にも参加せず評価を行う保護者もあり得る。授業評価はあくまでも専門的立場から評価を行うことが望まれる。○子どもからの話や学習参観（廊下でしゃべったり、携帯電話をしている保護者もある）だけで授業を評価することに無理がある。授業以外のことで評価されてしまうことに危機感を感じる。一生懸命に子どもに対して前面に出て指導している教員の評価が低くなり、事なかれで対応している教員の評価が高くなるケースも出てきて、多くの教員が「事なかれ」対応になれば、学校としての秩序を保てなくなり、間違いなく荒れてゆく。

○評価する保護者に対して評価規準が示されていないし、評価するに当たって授業の在り方等を事前に保護者に対して研修する必要がある。研修後テストを実施して合格した保護者に評価する権利を府教委から授与するようにすべきではないか。今後、教員生活を続けてゆくについて、アンケートの結果が大きく影響する中で、きちっと評価できる体制を組むことが必要である。そうでないと教員に対する人権問題になる。もっとも「教員には人権がない」という見解が府教委から示されれば別だが。

○授業アンケートは、実際に授業を参観した者でなければ評価はしにくい。保護者は子どもに聞いた上でアンケートに答えるのだろうが、判定には授業力以外の他の要素も多分に含まれる可能性がある。また、教員に必要とされる力は授業力以外に多くあるわけで、その内の授業力だけを判定するためにこのような大がかりなシステムを取り入れることで、授業力さえ高ければよいという雰囲気になり、他のことが軽視されることにならないか心配である。

○アンケートの準備、回収、集計に係る労力が膨大なものになり、本来の教育活動に悪影響を及ぼしかねないと推測される。従来の「学校教育自己診断」をもっと活用した方が学校教育全般には有効である。

○年間に限られた回数しか授業を見ることができない保護者が、子どもの意見を参考にするとはいえ、責任を持った評価をすることができるか。形式的な評価や表面的な人気投票的な評価になりはしないか不安。特に、低学年については難しいと感じる。集計したものをどう分析し理解したらよいものか、悩ましい。職員間や保護者との関係でぎくしゃくした空気が漂わないか、心配なところがある。

○保護者が授業参観する機会が頻繁にない中で、担任の授業のアンケートに答えることは難しい。学校自己診断と重なる点も多い。アンケートの集約する時間やプリント等浪費することが多いが、効果的な結果が得られるとは思にくい。外国席の児童や支援学級の児童の保護者対応も難しく課題が多いと思う。

○荒れた学校、学級崩壊しているような場合、授業者一人の力量、指導方法の工夫のみで、授業を行う学級がより良い学習集団になるわけではない。そういう困難な状況で授業を行う場合や保護者もよく授業中の様子や内容をつかんでいない場合もある。また、生徒の学習の理解力や教師、教科への好き嫌い等が生徒の考えや意見に強く作用するという様々な不確定要素がある。アンケートの数値を授業者に対する評価としてとらえるのは無理がある。

○1学期と2学期ともアンケートを実施すれば、そのための準備、回収、集計、その後の授業観察（観察票の記入）など管理職にとって時間と労力が非常にとられる。管理職は多忙な上に学校運営上やるべきことは山積しているなかで、アンケートの実施は管理職の職務が教員評価のみにとられているように教職員に受け取られてしまう。

○生徒の意見を参考に保護者とともにアンケートに回答ということであるが、保護者は年間1～2回の授業参観で、しかも少数の教員の授業しか見学をしていない。そんな状況で本当に生徒と協議して授業力を測るアンケートに回答できるのか疑問である。生徒についても教員の授業に対して正当な評価ができるのか？教員に対しての好嫌いの感情が入る可能性は充分考えられる。また、今年度は試行的な実施として一

回の実施ではあるが、来年度より年間二回の実施というのは多くの業務が混在する学校においては非常に厳しい状況にある。

38、阪南市

【要望】

- ・授業アンケートの実施主体は、各市町村教育委員会であることから、本格実施の際には、保護者依頼文（鑑）には、発信者を教育委員会（あるいは、市町村教委と校長の連名）と必ずすべき。
- ・今回のアンケート試行実施は、来年度からの本格実施を見据え、次年度に連動するアンケートとなることから、今年度のアンケート依頼文（保護者あて）にも「次年度から授業アンケートの結果を教員評価の一要素とすることが大阪府教育委員会において検討されておりますが、今年度、実施するアンケートについては、教員評価には反映されません」と記載するか、「大阪府では来年度以降、子どもたちや保護者を対象とした授業アンケートを実施し、教員の人事評価の参考とすることになり、今回のアンケート実施は、来年度の本格実施に向けて課題を整理するための試行実施でもあります」等、記載すべき。
- ・実施の際のアンケート依頼文（保護者あて）には、標題には「教職員の評価・育成システム」にかかる授業アンケートの実施について」等記載し、これが、教職員の人事評価の要素となる旨表記すべき。
- ・依頼文本文にも必ず「アンケートの使用目的として、人事評価がある」旨明記することが必要。これをしないことには、本年度のアンケート試行実施依頼文のアンケート依頼趣旨説明文のままでは、市民から収集したアンケート（＝行政資料）の目的外使用となると考えています。

【質問】

- ◆試行実施アンケートの結果、校長が管理する → アンケート用紙、集計結果電子情報、集計結果紙媒体情報の、保存年限と保存方法、また、異動時の引き継ぎ方法について、教えて欲しい。
- ◆同様に、本格実施となった場合の、アンケートの結果、校長が管理する → アンケート用紙、集計結果電子情報、集計結果紙媒体情報の、保存年限と保存方法、また、異動時の引き継ぎ方法について、どうなるのか教えて欲しい。
- ◆アンケートの結果、校長が管理する → アンケート用紙、集計結果電子情報、集計結果紙媒体情報は、行政文書であることから、市情報公開条例の「公開」請求対象文書となると思うが、これらの「公開」はどうなるのか教えて欲しい。
- ◆アンケートの結果について、当該教職員（個人）の分は、当該教職員に「開示」してもよいと考えるが、これでいいか。また、教職員（個人）に「開示」できるのはどこまでか、整理して、「開示」の方法、手続きと併せて、教えて欲しい。

39、熊取町

- ・アンケートを回収した中に、保護者の意見メモが2通あった。「先生方の評価がこのような形で点数化されることに疑問を感じました。」「先生の個人名をだしてアンケートをとるのは、なぜか先生方を評価しているようで嫌だと思いました。」
- ・多忙な校務の中、このアンケートを作成するのも、非常に大変であった。保護者の評価の仕方も担任との相性のみで評価している傾向がある。また、保護者の意見の中で、なぜ、プロの教師の授業を評価しなければいけないのか、との意見があった。
- ・保護者の中には、「通常の授業を見ていないので回答できない。」「授業アンケートに反対するので回答しない。」としてすべて空欄で提出された方や提出を拒否された方が複数おられた。
- ・保護者が授業評価をするには、イベントとしての参観授業ではなく通常の授業を公開する場を設けると、保護者が授業を十分に参観することなどの条件が必須だと考える。

40、田尻町

(なし)

41、岬町

- ・年2回の実施は、事務労力に対しどれだけの効果があるのか疑問である。年1回が望ましいと考える。

・平成 25 年度は、1 学期に 1 回、2 学期に 1 回の実施予定と聞いているが、できれば 1 学期分は、生徒がアンケートに答える形が望ましいと思います。1 学期だと保護者がそこまでわからないことと、生徒だけの場合は、回答率も高く、精度も高くなると思うからです。2 学期分は、保護者と生徒が回答する形でいいと思います。

4 2、堺市

《職員からの意見》

○保護者からの評価について。

・参観していない保護者もいる。 ・好き嫌いや人間関係が反映されるなど信憑性に欠けるのではないかな。 ・生徒指導で厳しい人の評価が悪くなる。 ・対応に苦しんでいる学年は悪い結果になる。 ・低学年の児童は授業の受け止めをきちんと保護者に伝えられるか。 ・高学年や専科より低学年の方が評価の高い傾向にある。 ・保護者が評価できるような条件を整えていくことが必要である。

○評価結果の扱いについて

・評価結果を管理職と教員がどのように共有するか。信頼関係が必要。 ・教員同士、教員と管理職の間に壁ができ、チームの分断につながる。 ・若い教員はプレッシャーがかかりよりしんどくなる。 ・保護者の評価を教員としても見ておきたい。 ・一方通行的な評価になる。 ・保護者との信頼関係を損なうことになる。 ・保護者に媚びたり、物が言いにくくなったりなど関係が難しくなる。

○対象者について

・講師等への理解をどう得るのか。本実施では定めが必要ではないか。 ・専科、少人数は 1 クラスあたりの時間数が少ないのに担任と公平か。

○支援学級生への配慮が必要。

○授業力評価のうち授業アンケートの占める割合がどのくらいになるのか。

○学校教育アンケートと重なる部分が多いので不要である。

《保護者からの意見》

○保護者が教員評価をすることについて。

・何のために必要なのか趣旨が理解できない。 ・保護者が教員を評価する必要があるのか。 ・評価することが嫌である。悲しい。 ・教育上よくない。 ・無責任になる。 ・参観をみただけでは評価できない。 ・よくわからないまま評価することができない。 ・専科、少人数など見る機会が少ない。 ・担任しか知らないのに答えられない。 ・アンケート結果が何%評価に関係するのか。割合が高いと責任があるし、低いならやる必要がない。 ・好き嫌いや人気投票になる。厳しい指導が低く評価される。 ・主観的な声によって先生方が評価されるのはいかがなものか。親の感情が入る評価に意義はない。 ・教育を腐敗させる。 ・意識が高い人は賛否両論。後の人は無関心。 ・授業アンケートの取組みはよいが、人事評価にすると正しい評価にならない。 ・未提出者の意味を受け止める必要がある。白紙回答や未提出の保護者の声をどのように吸い上げるのか。

○子どもが教員評価をすることについて。

・公立小学校で子ども、保護者を顧客とみなして授業評価をすることはなじまない。 ・こういうことを実施する教育委員会が D 評価である。 ・教えられる側の生徒が教員を評価するのは良くない。賛同できない。 ・子どもの評価をそのまま受け入れていいのか。子どもの聞き取りから回答するのは難しい。 ・小学生でも教科によって答えが異なる。 ・子どもには教員を評価する能力がない。 ・生徒の意見を丸呑みしてしまうことも反映する。追認がほとんど。

○教員が指導しづらくなる。

・教師の威厳をなくす。 ・教員を圧迫する材料にならないか。 ・教員の仕事をやりづらくし、意欲をなくさせる。 ・厳しい指導ができなくなる。 ・教員が保護者や子どもに媚を売ることにつながる。 ・いい評価を得るために授業のレベルを低くすることになりかねない。 ・モンスターペアレントを助長する。

○保護者と教員の信頼関係をなくす。

・親子の対話が学校批判になりかねない。 ・がんばっている先生が厳しく指導したのを良い評価にし

ないのではないか。

○記名式について

・回答しにくい。思っていること、悪いことを書きにくい。 ・内申に影響があるのではないか。と思う。 ・担任に回収させないでほしい。

○回答の仕方について

・「わからない」という回答を入れてほしい。 ・質問が抽象的で答えにくい。 ・支援学級の保護者は記入に相当困った様子。

○結果の活用について

・結果がどのように還元されて改善されるのか曖昧。 ・結果をオープンにして各先生方が即対応できるようなものならやる意義はある。

○講師や非常勤講師が入っていない。○校長の負担多くして実益なし。《児童・生徒への対応について》

○児童、生徒からの評価について

・児童、生徒に評価することを理解させることの難しさ。 ・子どもが何が何だか分からず、評価するのは難しいのではないか。 ・9割ほどが無関心。分からないので適当に塗りつぶす。 ・どのように記入するのか、周知徹底が図れない。 ・教科の好き嫌いによる評価が入る。質問が抽象的で回答しにくい。

・厳しい先生には低い評価をする。 ・友達同士で相談しているという危惧がある。 ・習熟度担当等、主担と副担の差が評価につながる。 ・教員の悪口を言う場面があり、教員と児童との信頼関係を損なう。 ・紛失する可能性やちゃんと保護者に渡さない子もいる。

○記名なので回答しにくい生徒もいるようだ。○講師等の区別の説明に難しさがある。○支援学級生、不登校生への説明が難しい。

校長からの意見》

○アンケートの信頼性について

・回答数が少ない。回収率が少ない場合、評価としていいのか。学年によっても回収率が違う。・回収率により授業改善につながるか疑問。 ・保護者に判断させるのは難しい、判断できない。⇔・保護者もテストやノートを通して授業がわかりやすいかは判断できる。 ・保護者が授業を見る機会が少なくアンケートに答えるのは難しい。 ・担任に対する評価が高く、その他の教員にはばらつきがる。・教科による好き嫌いがある。 ・教員の好き嫌い、教科の好き嫌いが評価になって本当の良さが判断できない。

・単に教員のランク付けという誤解を招かないか心配。・人気投票的。 ・判断基準が曖昧である。(保護者なのか子どもなのか) ・授業力のある教員が正当に評価されていない。 ・意欲的な教員の指導を保護者は評価できない。 ・正当な評価を得ているか疑問。正しい授業がマイナスに受け取られることも。

・注意や指導が感情で判断されてしまう。 ・子どもが楽しそうにしているからといった低い内容であった。・一部による恣意性、表面的な現象をみての判断がある。 ・客観性に欠ける。保護者が何を元に評価しているのか疑問である。 ・低学年や支援学級は子どもからの聞き取りが難しい。信憑性に疑問がある。 ・保護者からの信頼を失う。溝を深めることに。・意識が高い人は賛否両論。後の人は無関心。

・別の方法で保護者、子どもの思いを受け止める方法はないか。 ・保護者に評価をする責任をもってもらおう。

○授業力評価との関連

・アンケート結果と指導力が結びつかず、結果を直接教員評価にするのは問題である。 ・教員評価をするのは校長であり、アンケートはあくまで参考とするほうがよい。 ・担任、専科は同列に扱うのは難しい。・学級が安定していないと専科の評価も低くなる。 ・授業力にのみスポットがあたり、他の要素がおろそかになる。 ・「授業力」の定義、測る方法、評価基準を明確にしてもらいたい。 ・保護者による教員評価は必要。アンケート結果は十分反映させるべき。

○保護者への説明、理解を求めることについて

・課題整理をし保護者の疑念や疑問を払拭する具体策、丁寧な説明と理解が必要。 ・授業力評価をするのは校長であることを保護者にも理解してもらうことが必要。 ・府教委から保護者向けのリーフレットなど説明資料を配布してもらいたい。 ・授業を見てもらう機会、懇談会に残ってもらうなどの努力をする。

・PTA 協議会との連携など保護者への周知徹底。

○アンケート結果について

・アンケートを職員も見られるようにしたい。一方通行にならないために。 ・保護者、子どもとの信頼関係に悪い影響が出る。 ・教員の意欲、モチベーションが下がる。

○対象者について

・講師を対象とするかどうかでの混乱があった。 ・教科による持ち時間数が異なることや、少人数指導担当等時間数の違いによる不公平感。

○外国籍、帰国、渡日の保護者への配慮、支援学級の保護者、児童への配慮が必要である。

○管理職の事務量が増大し負担が増す。

・労多くして実り少ない。 ・教頭の負担が大きすぎる。 ・集計は民間に委託を。

○記入上の問題

・無回答も認める。 ・「わからない」項目が必要。 ・小学校のアンケート用紙の不要な欄は削除を。

・「記名式がよい（責任をもった回答）」⇔「記名式でない方がよい」

○学校教育アンケートとの整理を。重なる内容もある。○公開、公表について ・黒塗りにしても自ずと判別できる場合がある。

○短いスパンで結果を求められるが、教育には長いスパンが必要。

4 2、堺市・支援 (なし)

4 3、大阪市

集計結果は児童生徒や保護者の受けとめを正しく反映していると感じられるか？

* 予想通り、総じて高学年担任より、低学年の担任の評価が高い。

* C 先生の評価について全体的に高い評価（管理職から見て妥当な評価）であったが、2 学期初めに関係が少しこじれた保護者の評価だけ D が複数あるなど極端に低かった。

純粋な授業スキルではなく、保護者の担任に対する感情が反映される傾向は否めない。

*（管理職から見て、非常にながらんでいるととらえているにもかかわらず）発達障害を抱えている児童や、生活課題を抱えている児童が多数在籍している学級・学年の先生の評価が他と比べて低い結果となっていた。

小学校の場合、担任の力量だけでなく、児童の実態が大きく左右される傾向も否めない。

4 3、大阪市・支援 (なし)
